

## 天狗岩 (鉢窪)

むかし、鉢窪は、徳山藩の草刈り場じゃったそうな。そのころ、百姓たちは、朝早うに、草刈り場で草を刈ってきて、その草を田んぼに入れて、肥料にしちよったそうな。

ところが、徳山藩の武芸者たちが、この草刈り場にある大きな岩の近くに、小屋をたてて、槍のけいこ場にもしちよったそうな。

ある日、武芸者の一人がおいだした。

そのほかの話



「おいおい、天狗さまは、武芸に秀いでちよるといすが、こういう山奥で、剣術の修業をしちよったんじやろうのう」  
「ここに、ひよいと現れて、教えてくれんかのう」

「天狗さまをおまつりしたらどうじやろう。天狗さまに、剣術が上達するようにお願いして、それから、そのまえてけいこをするんじや。そうすりやあ、きつと上達するじやろう」

「そりやあ、ええ考えじや。ここの大岩の上に、天狗さまをおまつりすりやあ、天狗さまから、わしらのけいこが一目で

見える」

「話が決まりやあ、善は急げじや」

武芸者たちは、そういうと、すぐに準備をして、天狗さまを大岩の上におまつりして、そのまえて、武芸にはげんだそうな。

それで、その大岩を、天狗岩と呼ぶようになったそうな。

○鉢窪は、一の井手の興元寺の裏山の奥の、京大演習林のあたりで、天狗岩は、演習林の門から、百メートルくらい奥にある。

(語り手 徳山市二番町 福谷雪雄さん)